

第3 市民意識

1 高齢者を対象としたアンケート調査

(1) 調査概要

目的：高齢者の生活行動やバリアフリー環境に対する意識等を調査
 期間：平成22年8月4日～平成22年8月20日
 調査対象：65歳以上の市民1,000人（無作為抽出）
 調査方法：郵送による配付・回収
 回収結果：525（52.5%）

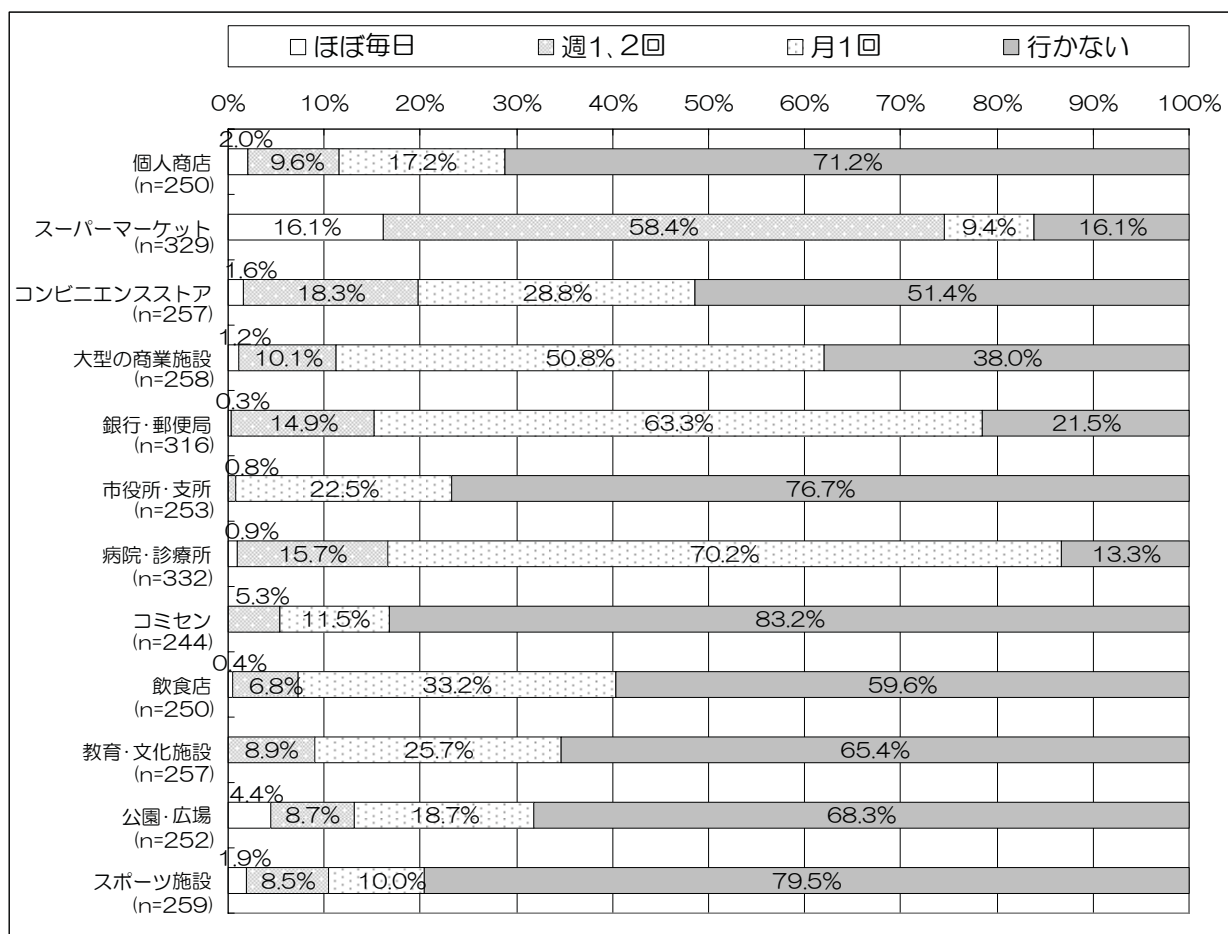
(2) 調査結果

ア 普段の外出先

利用頻度が高い（ほぼ毎日・週1、2回）施設は、スーパーマーケットで7割を超えています。

月1回の利用で多い施設は、大型の商業施設、銀行・郵便局、病院・診療所で、それぞれ半数を超え、病院・診療所は約7割となっています。

行かないとする施設で多いのは、個人商店、市役所・支所、コミセン、飲食店、教育・文化施設、公園・広場、スポーツ施設となっています。



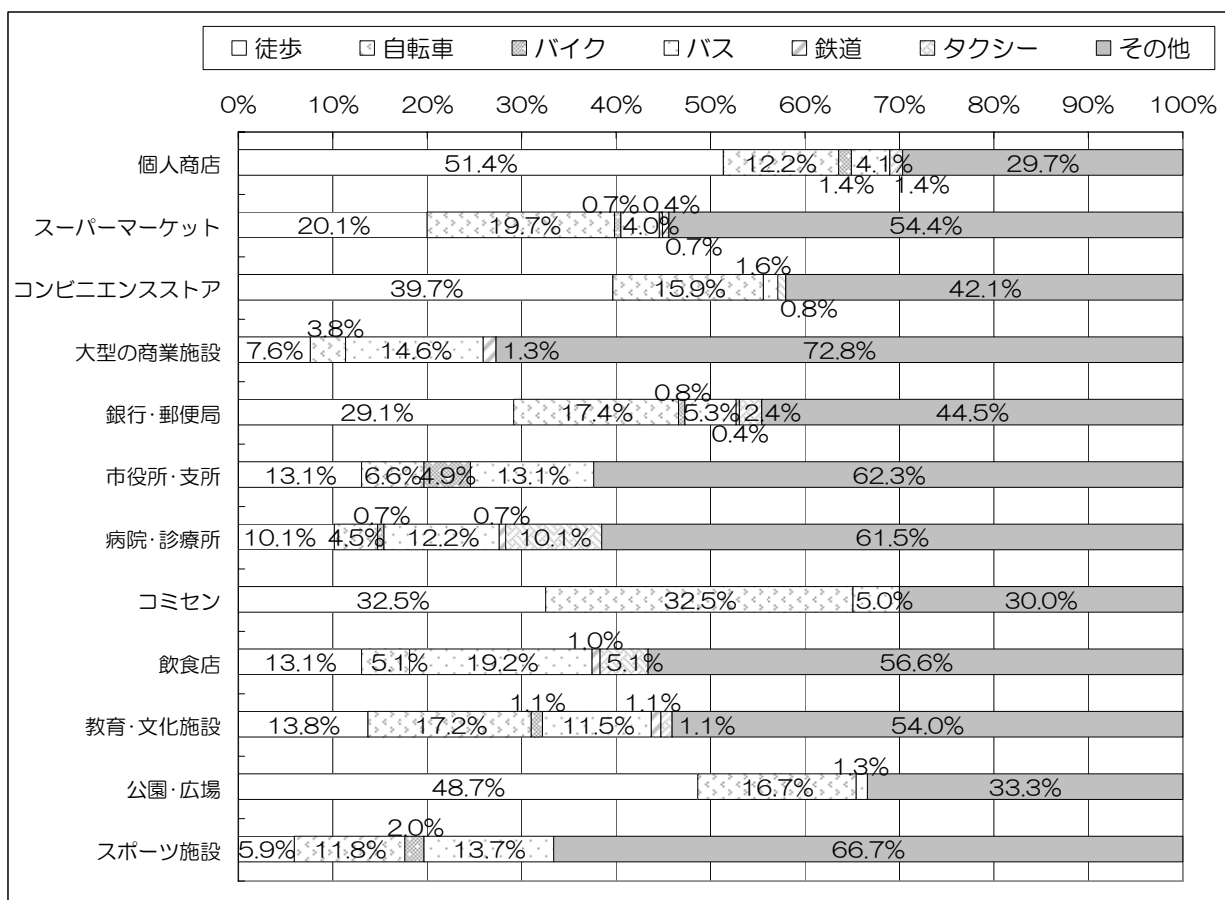
第3 市民意識

イ 交通手段

比較的、手軽な交通手段の“徒歩”と“自転車”での利用が多い施設は、個人商店、コンビニエンスストア、コミセン、公園・広場で、いずれも半数を超え銀行・郵便局(46.5%)も半数近くなっています。

“バス”での利用が多い施設は、大型の商業施設、市役所・支所、病院・診療所、飲食店、教育・文化施設、スポーツ施設で10～15%程度みられます。

一方、自家用車の利用が想定される“その他”では、スーパーマーケット、大型の商業施設、市役所・支所、病院・診療所、飲食店、教育・文化施設、スポーツ施設で多く、それぞれ半数を超えています。

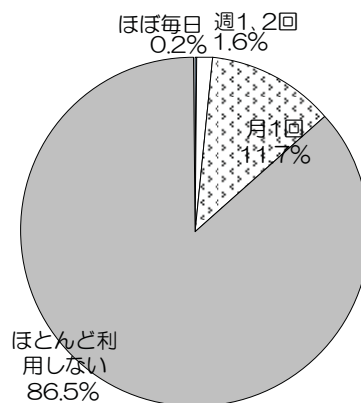


ウ 鉄道の利用状況

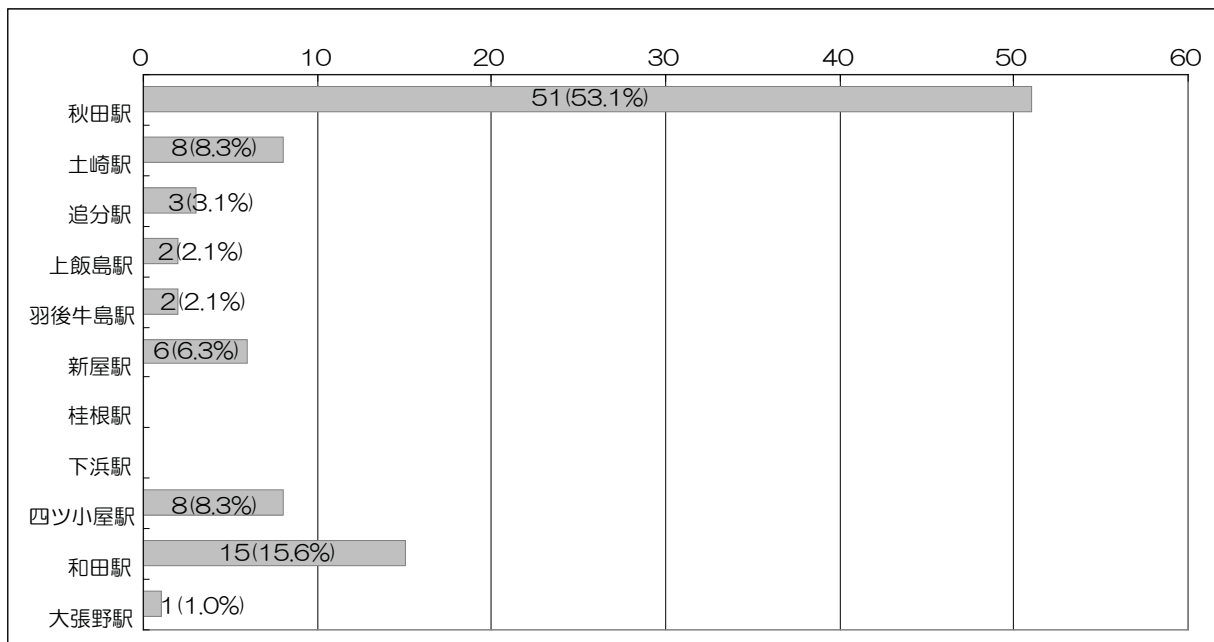
鉄道の利用は“ほとんど利用しない”が86.5%で最も高く、次いで“月1回”の11.7%となっています。

主に利用する駅では、秋田駅(53.1%)が最も多く、次いで和田駅(15.6%)、土崎駅、四ツ小屋駅(ともに8.3%)の順となっています。鉄道を利用する理由では、趣味・娯楽(39.0%)、通院・リハビリ(30.5%)、買い物(27.1%)の順となっています。

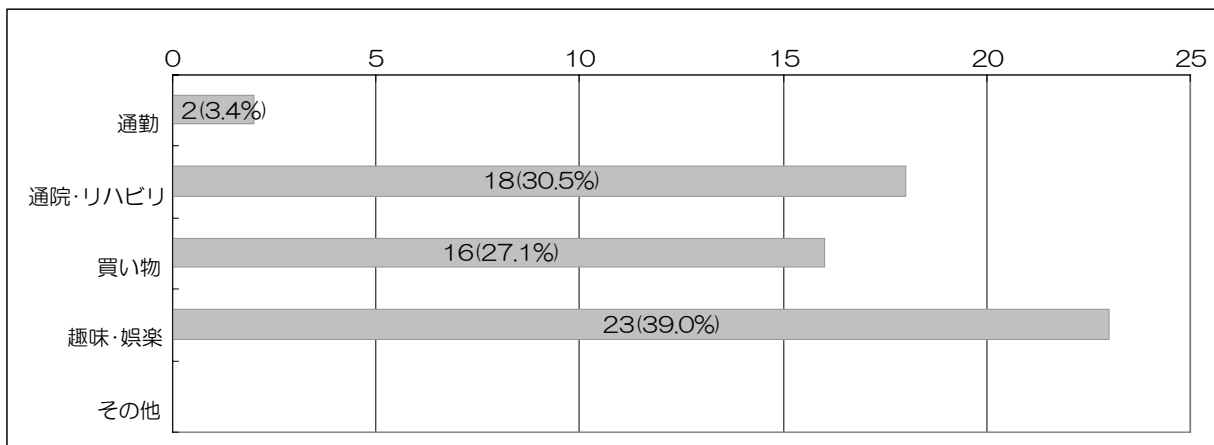
【鉄道の利用 n=445】



【主に利用する鉄道駅 MA n=96】



【鉄道を利用する理由 MA n=59】

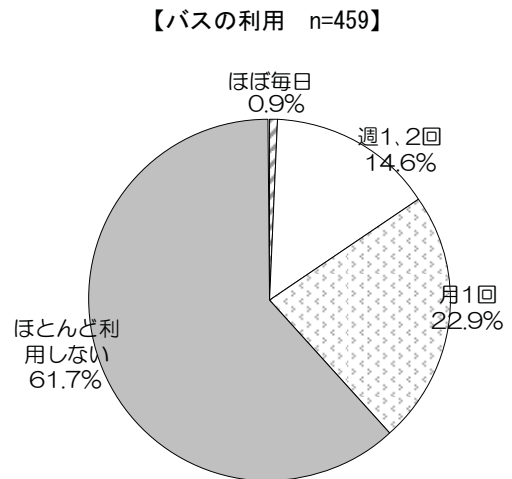


第3 市民意識

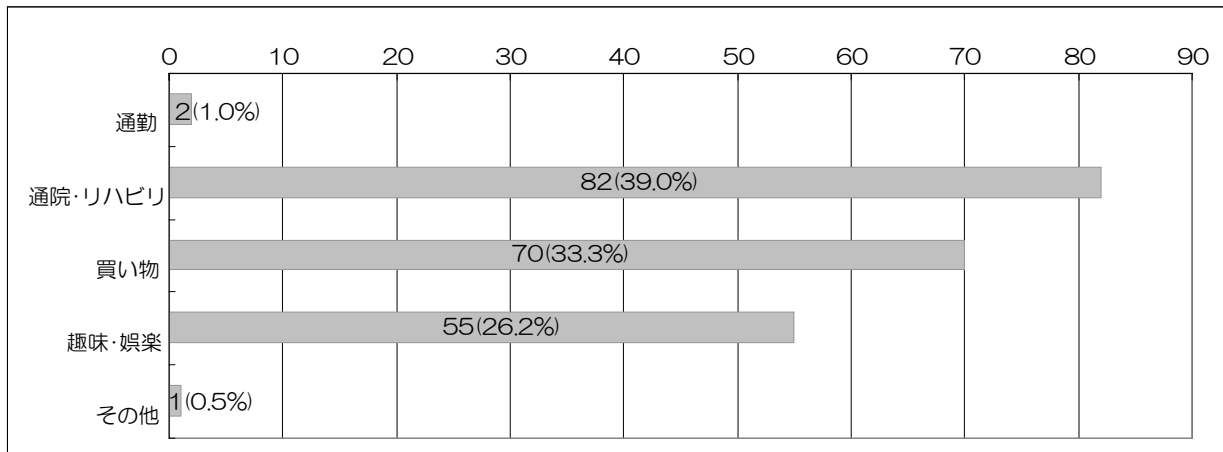
エ バスの利用状況

バスの利用は“ほとんど利用しない”が61.7%で最も高く、次いで“月1回(22.9%)”、“週1、2回(14.6%)”の順となっています。

バスを利用する理由は、通院・リハビリ(39.0%)、買い物(33.3%)、趣味・娯楽(26.2%)の順となっています。



【バスを利用する理由 MA n=210】



2 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進のためのアンケート調査

(1) 調査概要

目的：高齢者にやさしいまちかどうかを点検するため、市民ニーズ、意識を把握し、秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進のための基礎資料とする。

期間：平成22年7月7日～平成22年7月30日

調査対象：65歳以上の市民 1,500人

20歳～64歳の市民 1,000人

20歳～64歳の身体障がい者 500人

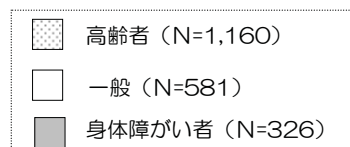
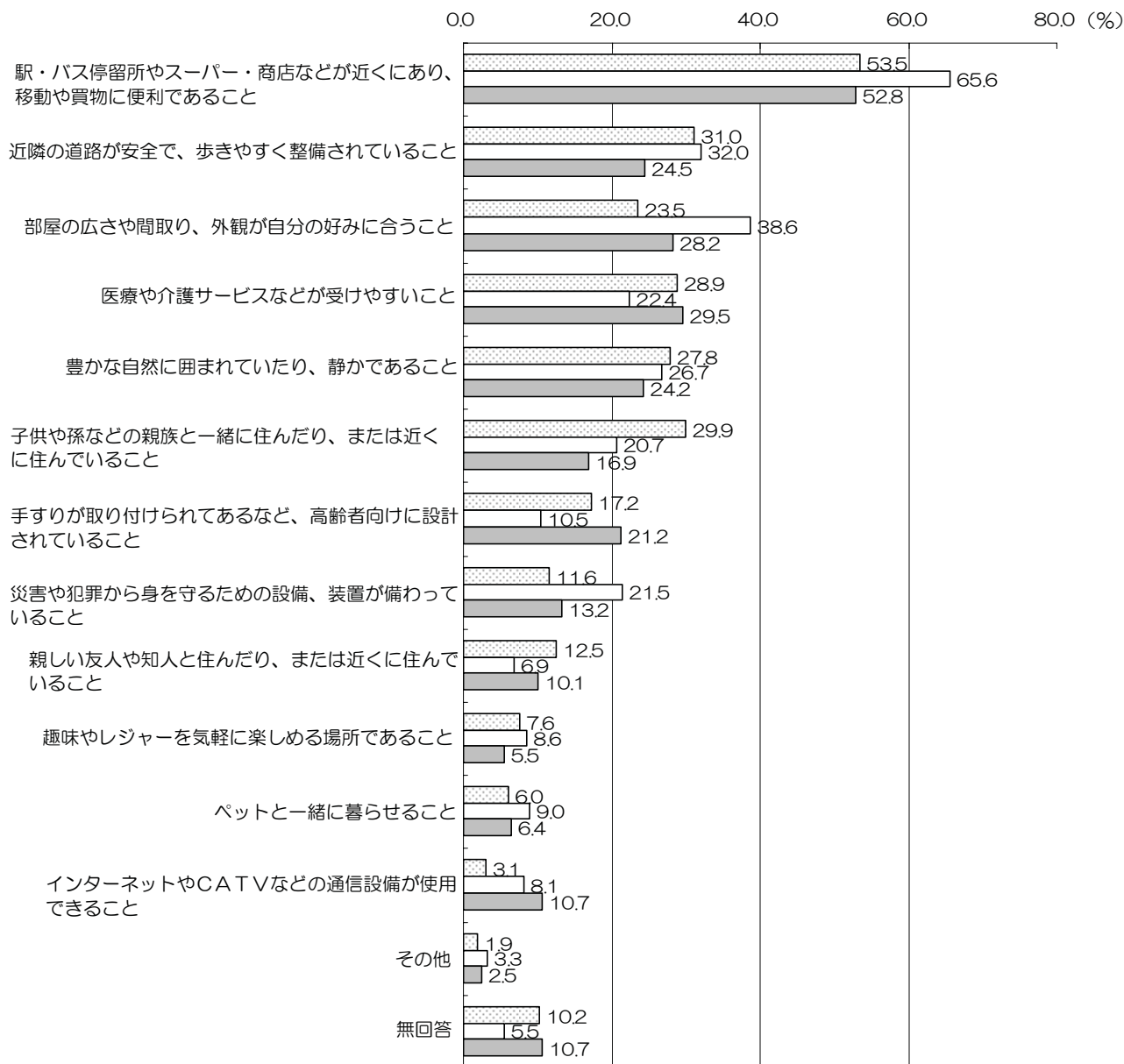
調査方法：郵送による配付・回収

回収結果：2,067 (68.9%)

(2) 調査結果（主なもの）

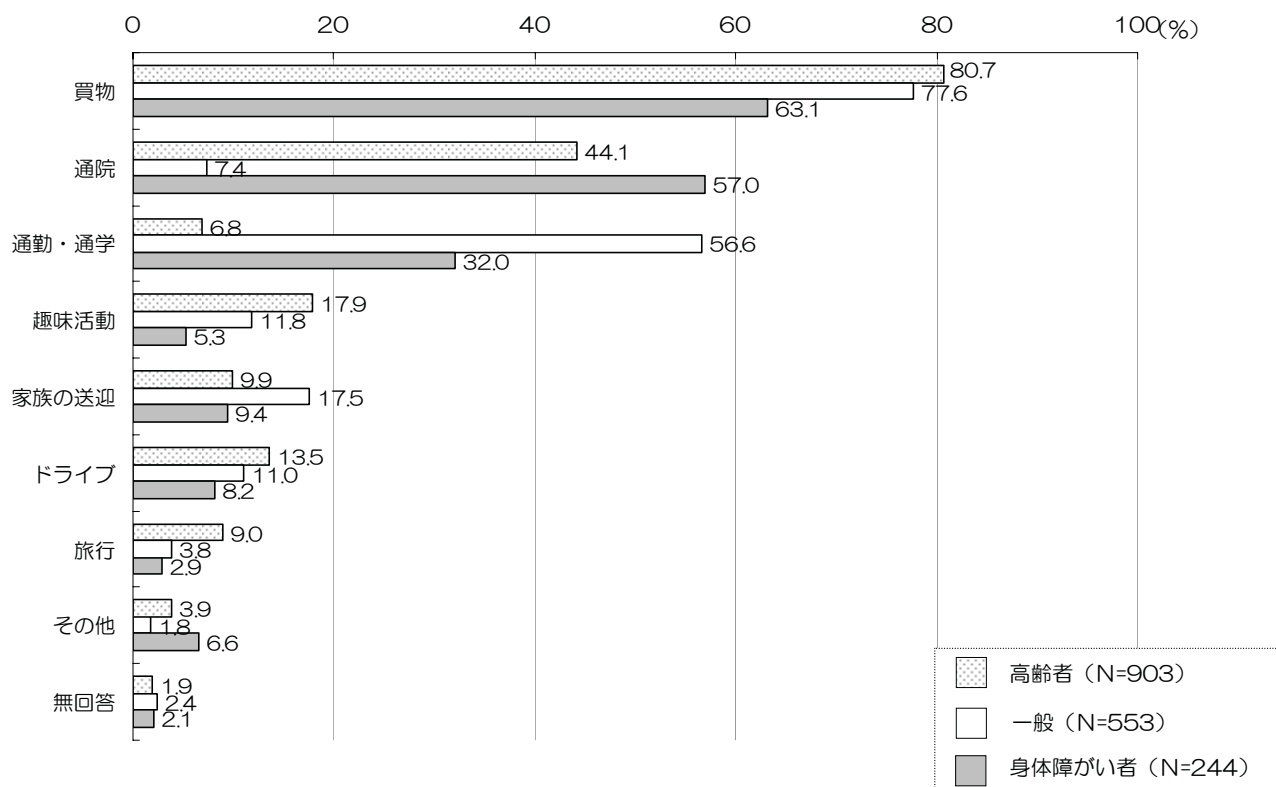
ア 住まいや住環境で重要な事項

「駅・バス停留所やスーパー・商店などが近くにあり、移動や買物に便利であること」は全ての対象者で最も高くなっています。



イ 自動車を利用する主な理由

「買物」はいずれの対象者も高く、特に高齢者は80.7%と非常に高い割合を示しています。「通院」は身体障がい者が57.0%で最も高く、続いて高齢者が44.1%となっています。高齢者と身体障がい者は、買物や通院に自動車を頻繁に利用していることがわかります。一般は「買物」(77.6%)に続いて「通勤・通学」が56.6%と高くなっています。



3 障がい者団体を対象としたヒアリング

(1) 調査概要

- 目的：障がい者のバリアフリー環境に対する意識等を調査
- 日時：平成22年7月21日
- 対象者：秋田市身体障害者協会会員6名

(2) 調査結果（主な意見・要望）

ア 屋外スペースと建物

- ・点字ブロック等は、車いすの障がい者にとって、ときには障害物
- ・施設整備に際し、障がい者からの意見聴取は、設計段階あるいはその前段階
- ・市民サービスセンター等の公共施設は、緊急避難場所であることも考慮しきめ細かいバリアフリー対策が必要
- ・視覚障がい者にとってスーパーなど大型店の駐車場は危険
- ・駅周辺での障がい者用の駐車スペースの数は不十分

- ・立体駐車場と施設フロアの連結部の重いドアは、車いすでの移動には障害
- ・横断歩道では、聴覚障がい者に配慮し、救急車等緊急車両が近づいていることがわかるような工夫が必要
- ・障がい者用トイレが、高齢者、子供連れの母親、妊婦などにも開放され数の不足もあり車いす利用者にとっては利用しづらい
- ・トイレは障がい者の立場に立った設計が必要。特に車いす。
- ・車を運転できない障がい者や高齢者にとっては、身近な場所で買い物ができなくなるのが不安
- ・標識、案内板などは、大きめの文字で識別しやすい色の使用とともに、白線、点字ブロックなどは定期的な点検・補修が必要

イ 交通機関

- ・聴覚障がい者は、室内のバス待合室での音声案内がわからないため、文字情報が必要
- ・聴覚障がい者への電車の遅れなどの緊急の情報は、改札口だけでなく複数箇所での文字情報が必要
- ・聴覚障がい者がバスを降りる際には、次に停まる停留所の文字情報が必要
- ・高齢者や障がい者用の各総合病院へのアクセスガイドマップや、駅からのシャトルバスの運行が必要
- ・車いすでのバス利用が低いため、原因分析が必要

ウ 尊敬と社会的包摂

- ・行政に障がい者の意見を聞く場や窓口が必要
- ・障がい者へのサポートを含め、障がいの有無に関係なく声をかけ合うような社会づくりが必要
- ・障がい者の社会参加と平等は不十分
- ・障がい者用駐車場やトイレを一般人も使用しマナーは不十分
- ・聴覚障がい者や内部障がい者は、外見で障がいがわかりづらいので、周りからの理解が得にくい

エ 情報とコミュニケーション

- ・手話は大切なコミュニケーションツールであり、公共の施設や不特定多数の利用する施設に手話のできる人の配置が必要
- ・手話通訳者の依頼申込みに際しての手続きや料金が不十分
- ・市内外の障がい者に対する駐車場マップなどの整備が必要